

鞠智城跡国史跡指定記念シンポジウム 『古代山城鞠智城を考える』

—発掘調査の記録—

期　　日	平成16年5月16日（日）
場　　所	菊鹿町多目的施設グリーンパルス
総合司会	はた　三恵
日　　程	13:30 開会 13:35 県あいさつ 13:40 来賓あいさつ 13:45 基調講演【磯村　幸男（文化庁文化財部記念物課主任調査官）】 『現代における文化財保存と地域住民 —史跡鞠智城跡の保存と活用、そして継承—』 14:05 事例報告【大田　幸博（歴史公園鞠智城・温故創生館館長）】 14:15 休憩 14:25 パネルディスカッション *パネラー 小田富士雄（元福岡大学人文学部教授） 岡田　茂弘（元東北歴史博物館館長） 板楠　和子（九州ルーテル学院大学文学部教授） 出宮　徳尚（岡山市教育委員会文化財課課長） *大田　幸博（歴史公園鞠智城・温故創生館館長） *コーディネーター 矢加部和幸（熊本日日新聞社編集委員） 16:10 閉会
主　　催	熊本県教育委員会
後　　援	菊池川流域古代文化研究会、肥後古代の森協議会、熊本県文化財保護協会、 肥後考古学会、菊鹿町教育委員会、菊池市教育委員会

目 次

I. 発掘調査の成果と概要	1
1. 長者原地区の調査	1
2. 貯水池跡の調査	1
1) 貯木場跡	1
2) 取水口跡	1
3) 水汲み場跡（木組造構）	1
4) 堤防跡	2
5) 遺物	2
3. 堀切門跡の調査	2
1) 門跡について	2
2) 登城道について	2
3) 城壁	2
4. 南側土堀線	2
5. 長者山西地区	3
II. 発掘調査資料	7
1. 駒智城跡遺構配置図	9
2. 32号（八角形）建物跡	10
3. 56号建物跡	11
4. 60号建物跡	12
5. 貯木場跡（貯水池跡）	13
6. 木組造構（貯水池跡）	14
7. 瓦当、1号木筒	15
8. 宮野礎石地区全景	16
9. 貯水池跡トレンチ配置図	17
10. 貯木場跡遺物出土状況	18
11. 取水口、石敷遺構、堤防	19
12. 堀切門跡（登城道）	20
13. 深迫門跡、堀切門跡	21
14. 堀切門跡（城壁）	22
15. 南側土堀線	23
16. 南側土堀線（模式図）	24

I. 発掘調査の成果と概要

1. 長者原地区の調査

長者原地区においては、昭和42年度より発掘調査を実施し、現在までに72棟の礎石建物跡及び掘立柱建物跡を検出している。特に全国の古代山城において初の発見となる八角形建物跡（32号建物跡）を検出するなど、鞠智城跡の全容解明に向け貴重な資料を提供している。

これらの建物跡については、検出された遺構等の切り合い関係や出土した遺物等の検討から、概ね3時期に区分できることが判明している。

また、60～65（66）号建物跡のように、建物の柱穴の規格や柱痕跡の規模、建物の配列の特徴等から、他の建物跡と性格付けが異なる可能性が指摘される。このことは、当該地点において出土した刀子、墨書き器や貯水池跡から検出された木簡や円面鏡の脚部破片の存在と併せて、役所的な施設が存在したことを示唆するものである。

のことから、今後「鞠智城跡の性格は、果たして国家防衛のための古代山城のみであるのか」といった問題についても解明を図っていかなければならない。

2. 貯水池跡の調査

平成9年度確認調査を実施し、長者原地区北側に位置する谷部において青灰色粘土層を検出した。^註

*註 同粘土層の成因については、熊本県水保全対策室 田北成樹氏、千代田工業株式会社 古澤二氏に依頼し、水成層であるとの御教示をいただいた。

1) 貯木場跡

28トレンチA、B地区において確認。両地区における建築材の種類には、違いが認められる（第20次）。

・A地区一大型の建築材

先端に鎌歛の鎌手加工がある材には、先端より約296cmの位置にほぞ穴の仕口加工が施される。（柾材としての使用が考えられる）

・B地区一細材

*細材は端部を削り、束ねた状態で検出。（6つのまとまりを確認）

*細材の束は、13～14本と22～33本のグループに2大別できる。

・出土した建築材については、水に浸ける工夫が認められる。

*枕木を敷く、杭で止める、平瓦を載せる等。

・出土した木舞は、直徑2～5cm、長さ3m以下に集中する。

2) 取水口跡

池跡の屈曲部南西端に存在する小谷と池跡との境部に取水口を確認。断面観察で逆台形を呈する溝跡や斜面部に杭跡が確認され導水路の施設の一部であると考えられる。

注がれた水は、高まりをもつ石敷造構で一時的に流れをゆるめ、中心部へと導かれたものと考えられる。

*取水口粘土層から円面鏡の脚部破片が出土。原位置をとどめるものではないが、鞠智城跡の機能の一端を示す資料である。

3) 水汲み場跡（木組造構）*第22次

池南端部の湧水地点近くで検出。池跡に堆積した水成粘土下部の砂疊層を、略方形深さ約30cmに

掘り込み、その形状に合わせて木を組んで構築されている。

使用されている部材は転用材であり、表面に加工痕が認められる。特に、④の材は肘木の可能性を考えられる。③の材の端部寄りにえつり孔が穿たれており、河川を利用した建築材の供給等に派生する問題を含んでいる。

遺構の南側、木組隙間部分に大型の礎2個を使用している（足場の可能性）。

*第21次調査で検出された2号木筒の出土層位は、当該遺構内部の覆土である。

4) 堀堤跡 *第22、23次

断面観察により確認した。堀堤は、台形状を呈し地山の直上に敷粗疊工法による基盤を築いていたことが確認された。その上面には、砂質土と粘質土を交互に入れ版築を行っている。断面東側で僅かに堀堤の崩落が認められる。その量から当時は僅かに高かったものと判断される。

*池跡は、谷領にあたる南側端部から北側端部に向かって低くなり、その比高差は9mを測る。このことから、水量調節のために複数の堀堤が必要と考えられ、今後の課題である。

5) 遺物

貯水池跡からは、貯木場跡において検出された建築部材や横樋、鍵の膝柄、曲柄平鍬等の他に、木筒4点、円面鏡の脚部破片を検出した。

特に、1号木筒は「秦人恐~~米~~五斗」の墨書き文字が判読でき、鞠智城跡の性格を解明するうえで貴重な資料である。これらの木筒は、切り込みの形状がU字状に近い形態的特徴を有し、切り込みの位置も通常よりやや上端部に近い。このような形態的特徴を有するものは、平城宮跡出土の荷札のうち特異とされる西海道関連の調綿のものに類似する。

さらに、大宰府出土の荷札にも共通した形状のものが見られる。

3. 堀切門跡の調査 *第22次

平成9年度より発掘調査を実施し、門礎石の原位置及び構造、登城道のルート及び構造、城壁の構造について確認を行っている。

1) 門跡について

第22次調査において、門跡に伴う柱穴1基が発見され原位置が確定した。柱穴は、一辺約80cmの方形で、深さ約1mである。2/3程度は、新しい道路により破壊されている。その結果、径40cmの柱痕跡が確認された。門の構造は、門礎石の両脇に2本の門柱を立てる形態と考えられる。

2) 登城道について

これまでの調査の結果、4時期の道路面を確認した。このうち、I～II期が鞠智城の登城道であると考えられる。

I期 凝灰岩を削り下面に平坦面、左右に壁面を造る。平坦面の上には粘質土を貼り硬化している。

道路跡の両端は凝灰岩の壁となり、凹道となっている。

硬化面の幅は、約2.15～2.7mで両側に側溝を設け（部分的には片側）、側溝の芯々間の距離約2.8～3.0mを測る。

II期 20トレンチにおいて部分的に確認した。その詳細については、不明。

3) 城壁

城壁の高さは19mで、勾配は45°を測る。15トレンチにおいて、城壁が途中中段をもって構築され、その中段テラス部には粘質土を貼っていることが確認された。

17トレンチからは、凝灰岩のブロック上に加工の際のものと考えられる工具痕が確認された。

4. 南側土壙線 *第23次

対象範囲は、尾根線（南側土壙線）のうち堀切跡より西側100mの地点から北西端までの長さ約500mとし、やせ馬の背のような地形的特徴を呈する尾根線部分を選択し実施。

土壙線構造に関する成果は、以下のとおりである。

①やせ馬の背のような尾根線部分に推定された土壙線は、張り出した平坦面である

(B) の外縁部を巡るかたちで構築されている。

②土壙の構築方法には、(a) 削り落とし、(b) 削り落としと版築の併用、(c) 版築の3種類が認められる。

③No.1トレンチにおいて、柵列に伴う可能性が考えられる柱穴が確認された（第16図）。

④No.2bトレンチの断面において、柵列に伴う可能性のある柱穴の痕跡が確認された（第16図）。

*柱穴は、土壙線頂部のほぼ中央に設けられ、規模は一辺約70cmを測る。

⑤No.5トレンチの断面観察から、旧地形の頂部を利用し、その西側外縁部に延ばすように版築を行い、土壙を構築している。

⑥No.2bトレンチにおいては、Aso-4を階段状に削り出した上に版築を行っている。

以上のことから、地形的特徴に応じた構築方法を選択し、土壙線を造り出していることが判明した。

5. 長者山西地区 *第23次

昭和40年代前半に削平を伴う造成工事が実施され、遺構は消失したと考えられていた箇所である。

調査の結果、丘陵の南北端に掘立柱建物跡（総柱）3棟、礎石柱建物跡（総柱）1棟が検出された。

【69号建物跡】

南側端で検出。総柱の掘立柱建物跡（2×4間）。柱間は梁行180cm、桁行195cmを測る。柱掘方の平面形は、約70~90cm×90~100cmの方形・長方形を呈し、深さは検出面から約30~40cmを測る。柱痕跡は径約25~35cmである。

【70号建物跡】

北側端で検出。総柱の掘立柱建物跡（2×3間）。柱間は梁行195cm、桁行195cmを測る。柱掘方の平面形は、約70~90cm×90~100cmの方形・長方形を呈し、深さは検出面から約15~30cmを測る。柱痕跡は径約25~35cmである。

【71号建物跡】

北西端で検出。総柱の掘立柱建物跡。削平を受け柱穴3基の検出にとどまり全体構造は不明。

【72号建物跡】

北東端で検出。総柱の礎石柱建物跡（3×4間）。柱間は梁行210cm、桁行210cmを測る。礎石6個が残存し、外は抜き取り痕が確認された。石材は、凝灰岩及び花崗岩である。礎石周辺より多量の炭化物（米を中心）層が確認された。

鞠智城跡発掘調査の歩み

第1表 発掘調査の概要

調査年度	次	調査地区	検出遺構	概 要	検査相談
S42	1	長者原	宮野礎石群	・米原台地の水田化工事（農業構造改善事業）、及び長者山の一部、開発に伴う緊急調査。	鞠智城調査団
	2	長者山		・多量の礎石が検出。	
S43	3	長者原 長者山 西側土堤線	長者山礎石群	・昭和42年度の継続調査 ・多量の礎石が振り起こされる。	鞠智城調査団
	4	長者原 長者山	宮野礎石群 長者山礎石群	・宮野礎石の露出、長者原礎石群の全面露出。 ・長者山の測量調査。	鞠智城調査団
S44	5	長者原 上原	掘立柱建物跡	・町道（立徳・仲井線）改良工事に伴う事前調査。 ・軒丸瓦片が出土。	蒲原町教育委員会
	6	上原	堅穴遺構（発）	【文化庁国庫補助事業】 ・上原地区的調査	
S55	7	長者原	宮野礎石群	・宮野礎石群の全面露出。 （昭和56年11月11日付けで縣史跡に追加指定）	熊本県教育委員会
	8	米原		【文化庁国庫補助事業】 ・航空写真撮影による米原地区的地形図作成作業。	熊本県教育委員会
S61	9	長者山地区	45～48号建物跡	【文化庁国庫補助事業】 ・長者山礎石群の調査。多量の炭化米と瓦が出土。	熊本県教育委員会
S63	10	長者原地区 上原地区	11～15号建物跡 19号建物跡	【文化庁国庫補助事業】 ・中心部が礎石、周辺に掘立柱の庇を持つ建物跡を検出。 ・宮野礎石群周辺及び小監ドンの調査。 ・礎石建物のみでなく、掘立柱建物跡の存在を確認。	熊本県教育委員会
H元	11	長者原地区	1～4号建物跡	【文化庁国庫補助事業】 ・掘立柱建物跡3棟、礎石建物跡2棟を検出。	
H 2	12	長者原地区	5,6号建物跡 7～10号建物跡 16～18号建物跡	【文化庁国庫補助事業】 *縣の自主事業による重要遺跡確認調査も加わって、調査面積は大幅に増大。 ・長者山東側削除部一帯（宮野礎石群を含む）の調査。	熊本県教育委員会
H 3	13	長者原地区	20～35号建物跡	*継続して文化庁国庫補助事業と県の自主事業による重要遺跡確認調査を行う。 ・町道西側一帯の調査。軒丸瓦が出土。 ・八角形建物跡2棟を検出。	熊本県教育委員会
H 4	14	長者原19,20区	36～44号建物跡	*文化庁国庫補助事業と県の自主事業による重要遺跡確認調査を行う。 ・鞠智城の終末期にあたる9世紀代の礎石建物を検出。 ・上原地区から建物群の空白地域が見つかる。 ・「内城」の土堤線を測量。一部で試掘を実施。	熊本県教育委員会
H 5	15	上原地区	51～54号建物跡	*文化庁国庫補助事業として、重要遺跡確認調査を行う。 ・町道東側一帯（上原地区）の調査。 ・上原地区は、遺構の空白地帯であることが判明。	熊本県教育委員会
H 6	16	深迫地区	版築土塁 登城道	*文化庁国庫補助事業として、重要遺跡確認調査を行う。 ・谷部を閉じるように構築された版築土塁を検出。 ・登城道を検出。	熊本県教育委員会

H 7	17	95-道路区 95-1区	D1号堅六目跡 D1号獨立柱建物跡 D2号獨立柱建物跡 D3号獨立柱建物跡 50号建物跡	<ul style="list-style-type: none"> ・50号建物跡は、礎石基礎部に根石を配して構築。 *同様の工法は、49号建物跡（宮野礎石群）、20~23号建物跡、38号建物跡の一部に採用。 	熊本県教育委員会
H 8	18	長者原Ⅱ区 長者原Ⅲ区 長者原Ⅳ区 長者原Ⅴ区	56号建物跡 1~3号上坑 56上坑1号 55号建物跡 57号建物跡 58号建物跡 1号不明上坑	<ul style="list-style-type: none"> ・整地跡を確認。 ・56号建物跡の整地。柱及び礎石掘り込み出土上遺物のうち最も新しいものは、8世紀後半~9世紀前半。 ・同建物遺構下（4）層出土の遺物は、7世紀後半~8世紀前半の時間幅をもち、整地「層」の存在から、創建期の建物の存在する可能性有。 ・須恵器の高环1個体が埋納。 <p>*56,59,65号建物礎石の原材採集地の検討。</p>	熊本県教育委員会
H 9	19	長者原Ⅵ区 貯水池跡	40号建物跡 6,7号溝跡 59号建物跡 65号建物跡 60号建物跡 61号建物跡 62号建物跡 63号建物跡 64号建物跡 66号建物跡 貯水池跡	<ul style="list-style-type: none"> ・59,64,66号（壁石）建物跡で、整地跡が確認された。 ・建物群を区画する溝を検出。 ・40号建物跡~6号溝~7号溝（36号建物の整地段階には発達） *4Z期に区分可能。 ・64号建物跡に作つた周溝から、百济系軒丸瓦（單刃八葉蓮華文）を検出。 ・1号木簡を検出。（泰人想木五斗） ・建築材、横植、鍾の膝柄、曲柄平銀等を検出。 	熊本県教育委員会
H10	20	貯水池跡	貯木場跡 取水口跡 石敷道構	<ul style="list-style-type: none"> ・繼手、仕口加工のある建築材を検出。 ・木舞、男性器形木製品、斧柄を検出。 ・小谷から水を取り込むための道構を検出。 ・地山の高まりに繋に配置し、水勢を調節。 	熊本県教育委員会
H11	21	貯水池跡	貯水池跡	<ul style="list-style-type: none"> ・2~4号木簡を検出。 ・建築材を検出。未製品の膝柄を保管、貯木。 ・門周辺の道路跡を検出。道路跡は、最多で3面上下に重なる。 	熊本県教育委員会
H12	22	貯水池跡 堰切跡	水汲み場跡 堰堤跡	<ul style="list-style-type: none"> ・池跡南西端部を確認。 ・湧水地点において、井戸枠に該当する木組み枠を検出。 ・水汲み場跡よりや北側において、堰堤跡を確認（断面）。 ・登城道跡が伸びる方向を把握。 ・門礎石の原位置を把握。 	熊本県教育委員会
H13	23	南側上界線 長者山西地区 貯水池跡	版榮土堤 68~72号建物跡 堰堤跡	<ul style="list-style-type: none"> ・土堤の構造を確認。 ・版榮、削り落とし、柱穴等を確認。 ・69,70号建物（獨立柱縦柱建物跡）、72号建物（礎石縦柱建物跡）。 ・水汲み場跡よりや北側において、堰堤跡を確認（平面）。 	熊本県教育委員会
H14	24	長者山西地区 貯水池跡	72号建物跡	<ul style="list-style-type: none"> ・72号建物（礎石縦柱建物跡）、炭化米堆相附。 	熊本県教育委員会
H15	25	西側上界線 貯水池跡	土堤	<ul style="list-style-type: none"> ・土堤構造の確認。 	熊本県教育委員会

[各年度の調査面積は、約5,000m²である。]

鞠智城の研究歴史

第2表 研究歴史

時代	研究者	文献	概要
江 戸	渋谷 公正	『菊池風土記』	『文徳実録』の「天安2年菊池都不動倉11手穴」との記事を米原村長者田敷に比定。
	八木田純水	『桃元問答』	「菊池の初代田隣以来の居城となった深川の菊之城は、鞠智城の跡跡を取りしつらひて居城としたとも考えられるが、城家の居城であった木庭村も鞠智城の跡跡か」と述べている。
	森本 一瑞	『肥後国誌』 [明和9(1772)年]	深川説を否定して、鞠智城は兵庫や不動倉などを持っている官城であるので、間府、水島、米原の一帯にわたる広大な地域を占むるものであろうとみている。
明 治	吉田 東伍	『大日本地名辞書』	「鞠智城を辺地の肥後国菊池郡に求めるのは、大野城を豊後國大野郡に求めるのと同じである」と笑っている。
昭 和	中島 秀雄	大阪毎日新聞	「米原の要考こそ続日本紀文武天皇2年5月、大野、基跡城とともに統治された鞠智城であろう。礎石の並ぶ山、多くの礎石が出土した畠、焦糞が冠をなしで埋まっている畠、流ヶ御所、鳥ヶ城、シャカンドン、紀尾敷、宮床、馬洗瀬、長者井戸などの地名がある」と報じている。
	熊本地歴研究会		基跡城跡を踏査して米原における遺構と比較し、基跡城跡の研究者久保山善映氏や松尾裕作氏等も米原の遺構を踏査した。「長者の約石」は、朝鮮式山城の城門基礎であることを確かめた。
12		『地盤研究第10篇』5	「鞠智城址に擬せられる米原遺跡に就いて」を発表。
17	坂本 経亮	『日本談義』vol.51	「鞠智城」を発表。 鞠智城の文献を集録して性格を考え、米原高台に住む東、南、西の城門縫、水門縫、長者山の礎石間尺、土堀線などは朝鮮式山城の規模に類似し、焦糞の多量の埋没は、「…天安2年不動倉11手穴く…」の史実を物語っているとした。特に土堀線は自然尾根を利用して外側を切り落とし、鞍部にのみ盛上した状態であることに注意し、さらに土堀線は米原台地周辺だけでなく、これを内部として岩線は傾斜より木野丘陵を北に登って城北の谷をいただく外郭を形成することに注目した。
13	松尾 輝規		城北村史蹟顕彰会会長。鞠智城跡を調査し、標木を建てて保護顕彰に努めた。
28	鏡山 盛 (九州文化総合研究所)		10月、大野府、大野城、基跡城の一連の調査として、「鞠智城の調査保護計画」を作成し熊本県に対して陳情を行ったが実現しなかった。
31	坂本 経亮		11月、熊本史学会で「鞠智城跡について」発表。
	浅川政次郎 (菊池古文化調査団)		8月、米原一帯の遺構を調査し、特に長者山の礎石列を実測した。
	島田 正郎		8月、菊池市において「高句麗国内城と鞠智城」について講演した。
33	坂本 経亮	『熊本の歴史』 熊本日日新聞社発行	9月、鞠智城を米原に比定し、掲載。
34	熊本県教育委員会		12月、「史跡・伝鞠智城跡」として長者山礎石群、深迫門縫石を史跡に指定。
42	熊本県教育委員会		米原台地に計画された開発工事に伴い、乙益重蔵を团长とする調査団による発掘調査を実施。
51	熊本県教育委員会		8月24日付けで、名称を「鞠智城跡」と改称。

II. 発掘調査資料 (図版・挿図)

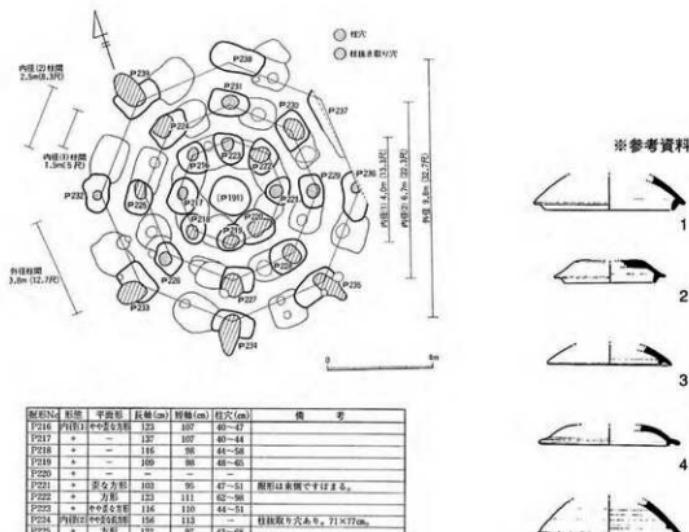
1. 鞠智城跡遺構配置図



鞠智城跡パンフレット（発行：平成9年7月）に追記



2. 32号(八角形)建物跡



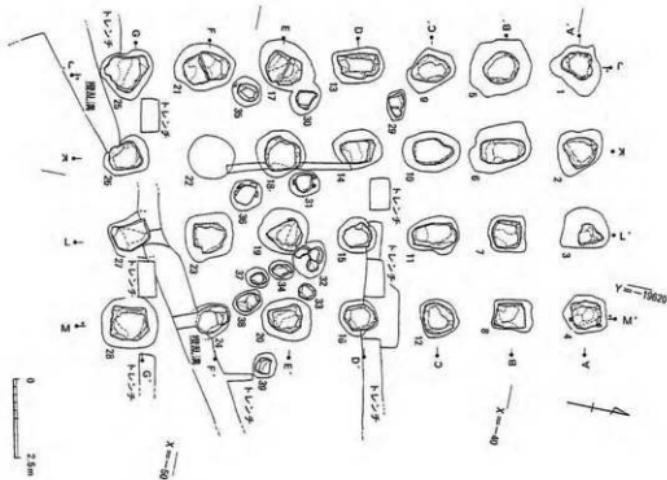
施設番号	施設	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	柱穴(cm)	備考	
P216	円柱1	正方形	123	107	40~47		
P217	+	—	137	107	40~44		
P218	+	—	116	96	44~58		
P219	+	—	109	96	48~65		
P220	+	—	—	—	—		
P221	→ 重ねて形	103	95	47~51	楕円形の東側で寸法ある。		
P222	→ 方形	123	111	62~98			
P223	→ ややそく方形	114	110	44~51			
P224	円柱1+2+3+4	正方形	156	113	—	柱抜取り穴あり。71×70cm。	
P225	→ 方形	122	97	43~68			
P226	→ 方形	111	97	50			
P227	→ 正方形	123	93	—	柱抜取り穴あり。80×80cm。		
P228	→ 中央柱3室	140	112	—	柱抜取り穴あり。62×74cm。		
P229	→ 正方形	126	85	52			
P230	→ 正方形	130	83	—	柱抜取り穴あり。56×68cm。		
P231	→ 正方形	123	95	51~61			
P232	柱間	正方形	97	97	33		
P233	→ 正方形	152	104	—	柱抜取り穴あり。80×107cm。		
P234	→ 正方形	167	126	—	柱抜取り穴あり。73×129cm。		
P235	→ 正方形	178	91	—	柱抜取り穴あり。50×142cm。		
P236	→ 正方形	185	94	42	道路の西側に切られてる。		
P237	→	(著 路 の 断 面 に 切 ら れ て い る)	206	110	—		
P238	→	正方形	142	83~108	—	柱抜取り穴あり。82×146cm。	
P239	→ 正方形	142	83~108	—	柱抜取り穴あり。82×146cm。		

遺構周辺出土須恵器

3. 56号建物跡



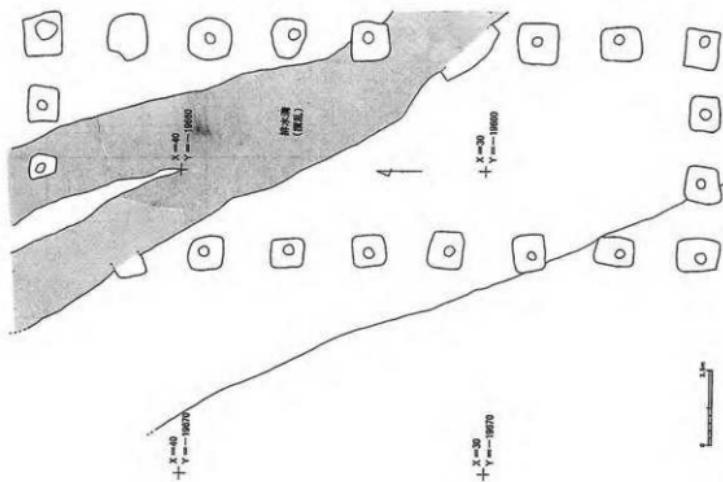
(東から)



4. 60号建物跡



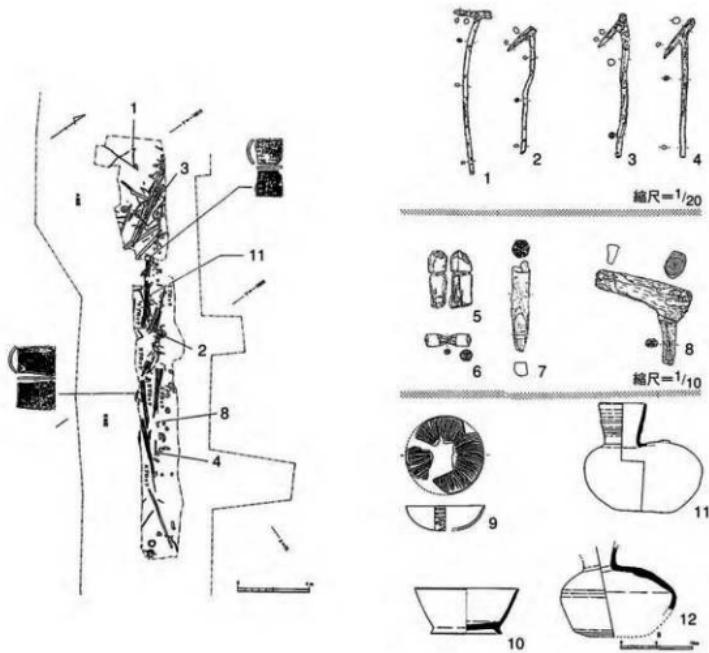
(北から)



5. 貯木場跡（貯水池跡）



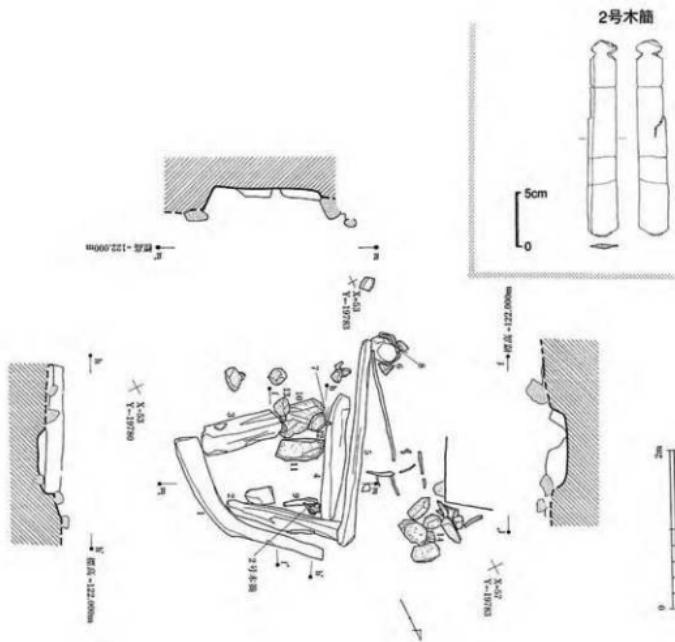
(南東から)



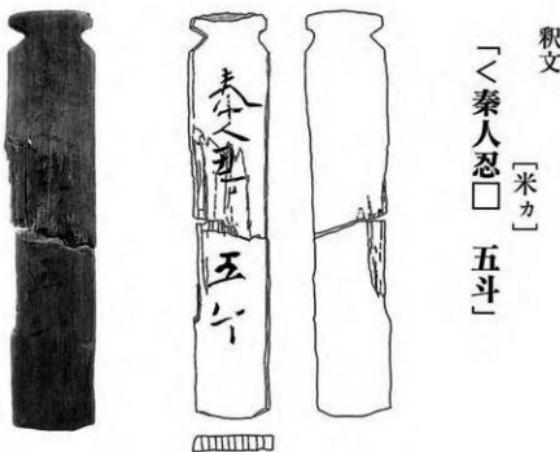
6. 木組遺構（貯水池跡）



(北東から)



7. 瓦当、1号木简



8. 宮野礎石地区全景



平成2年度発掘調査
宮野礎石地区全景

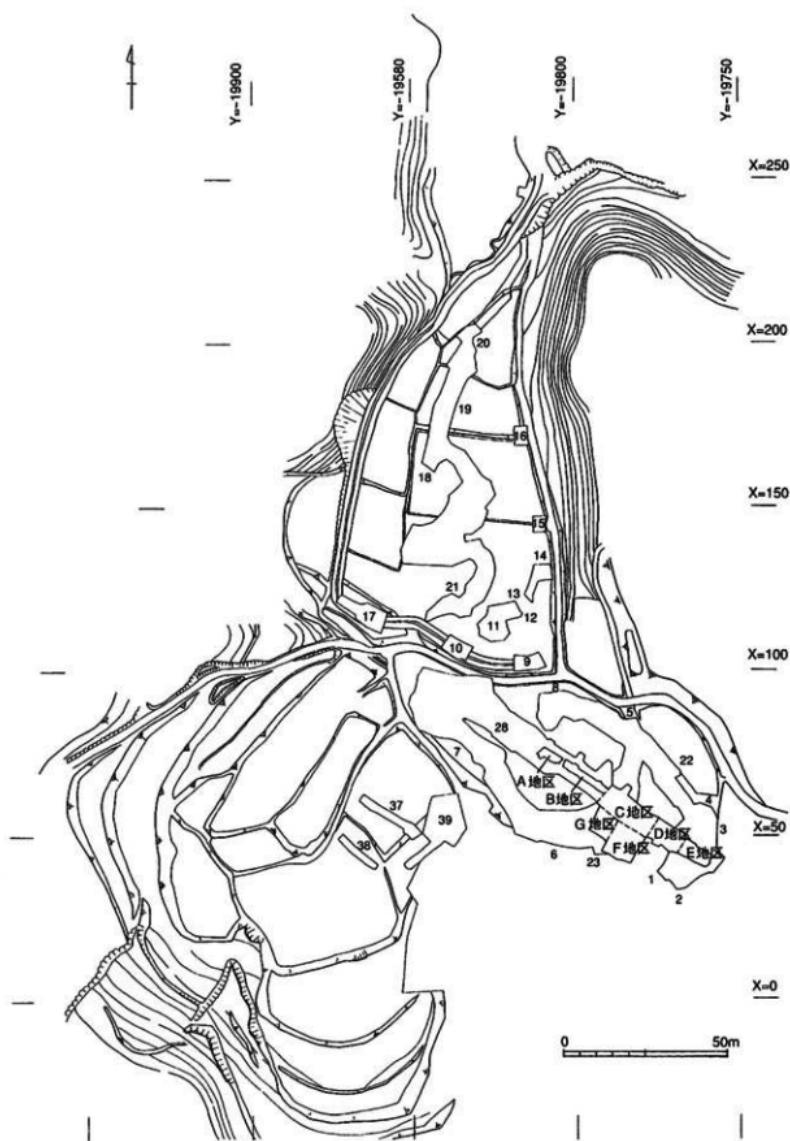


1号建物跡



11号建物跡

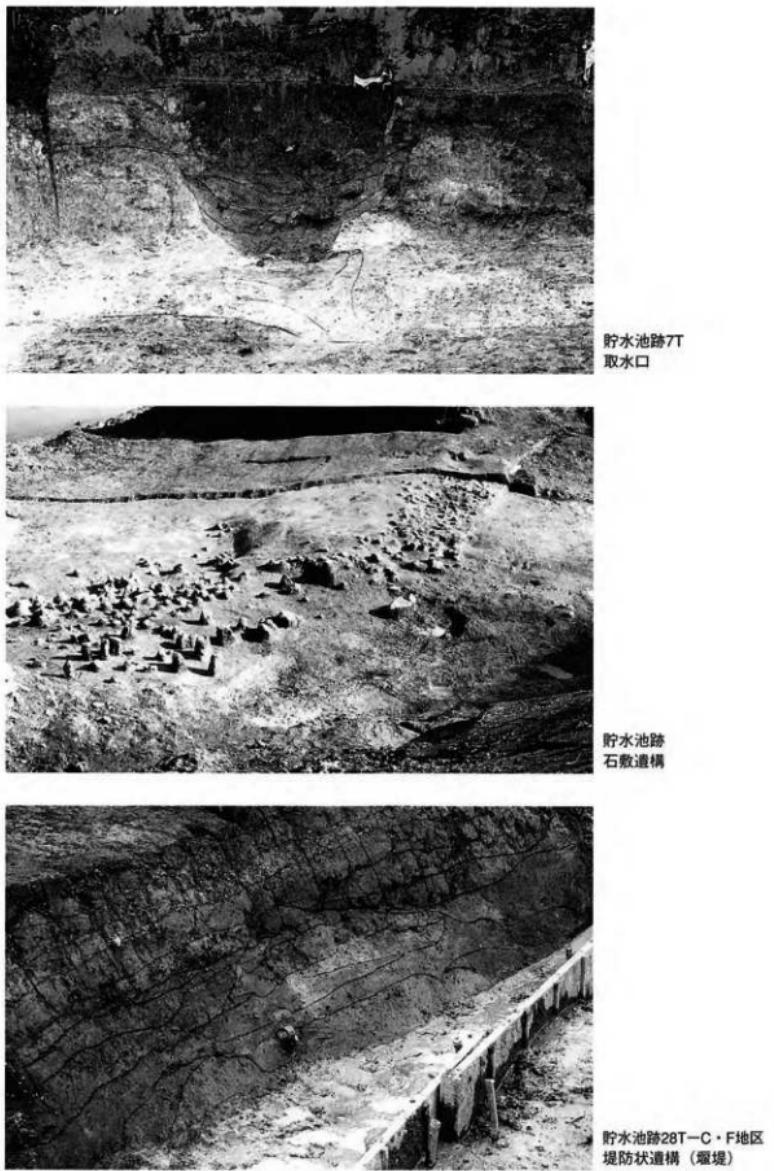
9. 貯水池跡トレンチ配置図



10. 貯木場跡遺物出土状況



11. 取水口、石敷遺構、堰堤



12. 堀切門跡（登城道）



13. 深迫門跡、堀切門跡



深迫門跡全景



堀切門跡 16,20T
完堀状況



堀切門跡 8T
道路跡

14. 堀切門跡（城壁）



堀切門跡15T 城壁

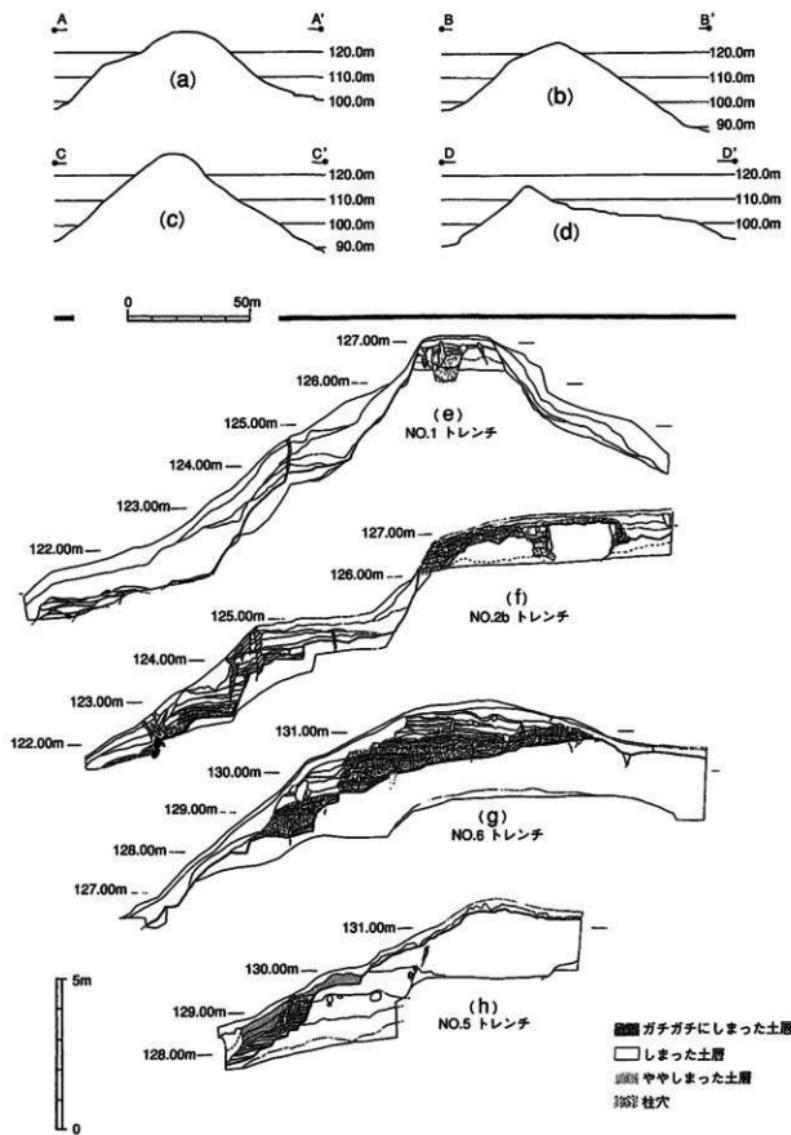


堀切門跡17T 城壁
(凝灰岩 加工痕有)

15. 南側土壠線



16. 南側土壠線（模式図）



鞠智城跡国史跡指定記念シンポジウム
『古代山城鞠智城を考える』

—発掘調査の記録—

平成 16 年 5 月 16 日

編集発行 熊本県教育委員会
〒860-8609 熊本県水前寺6丁目18-1
TEL.(096)383-1111(代表)

印 刷 株式会社 ト ラ イ
〒861-0105 熊本県熊本郡椿木町妹取373-1
TEL.(096)273-2580

この電子書籍は、古代山城鞠智城を考える 鞠智城シンポジウム発表要旨 2004 を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、古代山城がある市町村教育委員会、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：古代山城鞠智城を考える

鞠智城跡国史跡指定記念シンポジウム発掘調査の記録

鞠智城シンポジウム発表要旨 2004

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

電話： 096-383-1111

URL：<http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：西暦 2022 年 7 月 21 日